

# 東ティモールの現状 と国際支援

Actual Condition of Timor-Leste  
and International Support

風 間 秀 彦

(前 JICA 東ティモール国立大学工学部支援  
プロジェクト チーフアドバイザー)





# TIMOR - LESTE



東西: 約 280 km  
南北: 約 20~90 km  
南緯: 約 9°  
時差: +9 時間



デイリ国際空港(プレジデンテ・ニコラウ・ロバート空港)

- ◎ 成田-JL/GA 7hr-デンバサール-MZ 2hr-デイリ
- 成田-7hr-シンガポール-SLK 4hr-デイリ(週2便)
- 成田-QF 7hr-ケアンズ-QF 2hr-ダーウィン  
-AN 2hr-デイリ

## 東ティモールの概要

	東ティモール	日本
面積 ( $\times 10^3 \text{ km}^2$ )	15 (長野県相当)	378
人口 ( $\times 10^4$ 人)	113.3	12,700
人口密度 (人/ $\text{km}^2$ )	75.5	337
首都	ディリ	東京
公用語	ポルトガル語、タトゥル語	日本語
民族	マキア人、華人、インド系人等	日本人 99%
宗教	キリスト教(カトリック) 99%	仏教 63%
政体	共和制	立憲君主

## 東ティモール(ティリ)の気候

気 候：熱帯モンスーン気候

平均気温：25～30℃（東京5～28℃）

気 温：最高30～35℃、最低24～27℃

季 節：雨季3～7月、乾季8～2月

年間降水量：1,000 mm（東京1,400 mm）

降雨パターン：スコールの

平均湿度：30～60%（東京50～80%）

地 形：山岳地形（約6割、最高峰ラモウ山2,963 m）

大 き さ：東西約290 km、南北20～90 km



自然豊かで美しい  
海岸(ディリ市)





東部のジャコ島と海  
真っ青な海、全く汚れ  
のない水と無人島

ジャワ海に沈む  
夕日(ディリ市)







自然豊かな  
ディリのビーチ

鮮やかに咲き乱れる花  
(Hera Campusのブーゲンビリア)



## 東ティモールの沿革 (1)

- 16世紀前半 ポルトガルがティモール島を征服
- 1859年 リスボン条約 ポルトガルとオランダがそれぞれ東西ティモールに分割統治
- 1942年 日本軍がティモール全島を占領(約3.5年)
- 1945年 ポルトガルの東ティモールの支配復活
- 1974年 ポルトガル本土クーデター、東ティモール独立の動き
- 1975年 独立・反独立派の抗争、インドネシアが独立派を制圧
- 1976年 インドネシアが東ティモールを27番目の州に併合宣言
- 1991年 インドネシア軍による独立派虐殺事件
- 1998年 インドネシアが東ティモール独立容認の方針転換

## 東ティモールの沿革 (2)

1999年8月 独立の直接投票実施

9月 結果発表後、反独立派の破壊・暴力的行為が激化  
国連が多国籍軍を派遣

10月 インドネシア軍撤退を決定

2002年3月 憲法公布

5月 国連が東ティモール支援団派遣  
東ティモール共和国独立

9月 国連加盟

2004年12月 各県で選挙開始

2005年 4月 国連が支援団の撤退を決定

2006年 5月 憲兵隊員が国軍から離脱、国際治安部隊派遣

2008年 2月 ホルタ大統領・グスマン首相襲撃事件



焼き払われた建物



焼き払われた住宅



Administration & Lecture Building 'inside view' Faculty of Engineering UNIL

Before  
outside view



Entrance hall





ディリ市内の市場  
2003年9月

紛争による難民キャンプ  
ディリ市 2007年9月





ディリ市の遠景



ディリ市街





ディリ市街の交通状況

待折、交通渋滞発生





## 東ティモール・日本の産業・経済

	東ティモール	日 本
主要産業	農業、石油、ガス	工業、漁業、サービス
GDP 億ドル	4.99 (2008)	49,106 (2008)
GDP ドル/人	155 (2008)	34,115 (2008)
経済成長率	12.8 % (2008)	-3.7 % (2008)
貿易輸出品	コーヒー 石油、ガス等	自動車、電子部品、鉄鋼、原動機等
貿易輸入品	燃料、食料品、日用雑貨、中古車等	原油、LNG、電子部品、衣類、非鉄金属
卒卒公務員初任給	20 千円	200 千円



マナツトの稲作  
JICAの灌漑プロジェクト

JICA  
自生のバナナ園



## 東ティモールの現状(1)

### 言語

公用語：ポルトガル語、テトゥン語

多言語：部族語、テトゥン語、インドネシア語、英語

2012年以降の教育言語：ポルトガル語、テトゥン語、英語

### 教育

非識字率：No data 40%? (15歳)

初等教育就学率：75% (1996~2004年)

学校教育：戦時中教科書どおりの授業が行われていない

大学生の学力：低いが、徐々に改善

微積分、力学はあまりできない

分数の加減乗除ができない学生

英語の読み書き、話せない学生

記憶主体の教育、論理的教育の欠如

## 東ティモールの現状(2)

治安状態：国際連合東ティモール統合ミッション(UNMIT：1800名)、多国籍軍駐留 → ほぼ安定  
窃盗、盗難の犯罪 → 極めて少ない

電力供給：頻繁に停電(燃料不足、送電設備不良)  
要自家発電設備

水道供給：市街地はほぼ普及

衛生状態：市街地はほぼ良好  
感染症(マラリヤ、デング熱、インフルエンザ)

インフラ整備：道路・橋梁、河川、砂防・地すべり対策、  
上下水道、建物などが急務

## 東ティモールの現状(3)

国家予算：約 3,600億円 (2009年)

産 業：農業(国内総生産の1/4)

コーヒー(輸出品)、米、とうもろこし、  
いも類、ココナツ等、石油、天然ガス

二次産業：製造業はほぼ皆無

外国資本：多くの建設業、三次産業の半数程度

生活物資：大半を輸入

自然環境：豊かな自然

環境問題：ほとんどなし

人間性：温厚、親切

## 東ティモールの現状(4)

公共交通機関: 市内交通 ミクロレット(ミニバス)  
長距離交通 小型～中型バス  
道路と車が唯一の交通手段

土砂災害: 多発、保守・点検能力の欠如

支援国: オーストラリア、ポルトガル、EU、日本、  
アメリカ、ブラジル、中国、タイ、韓国など

日本の支援: 教育・人材育成、インフラ整備・維持・  
管理、農業・農村開発、平和の定着等

在留邦人: 約100名  
(大使館:15、JICA:25、建設・コンサル:20、  
国連関係:10、NGO等:30)

## 東ティモールの国民性

### 背景:

- ・ポルトガルの植民地：教育・産業の育成、インフラ整備なし
- ・インドネシアの統治：インドネシア人による教育・インフラ整備と管理

### 国民性:

- ・ 社会主義的思考 → 論功行賞の制度ほとんどなし  
競争意識の欠如
- 主体性・積極性 → 受け身  
支援は全て歓迎
- 行動力 → 消極的(壊れた → 誰かが直すだろう)  
維持・管理能力欠如、東ティモール時間
- 格 差 → 大きい
- 犯 罪 → 窃盗、盗難が極めて少ない

# 東ティモールの国道





ディリ市ベコラ地区の国  
道1号線沿いの地すべり

2008年5月27日



2009年12月15日



2010年2月15日



国道A02号線、長針な路盤であるが幅員が狭い



国道A02号線の木田峠による利用制限



国道A02号線の石積み擁壁の上中現場



国道A02号線のツツム地区現場



### 東ティモール大学工学部

東ティモールの進歩・発展の歩みは遅いが、一歩ずつ進歩しつつ、次第に歩みが加速し、10~20年後には発展を遂げた途上国に追いつくと予想される。